



newsletter

Nexus-HHC

Japan Home Health Care Alliance

Issue 08  
2023.JAN

〈Nexus (ネクサス)：集団、結合体、つながりや結びつき〉 多職種で在宅ケアを支える日本在宅ケアアライアンスを表すのにふさわしい言葉として、会報名にいたしました。



To JHHCA  
Message

## 在宅医療のとの長い関わりを礎に — 在宅ホスピス家族交流会 —



日本医師会名誉会長  
横倉 義武

【PROFILE】  
ヨコクラ病院理事長。1983年、ヨコクラ病院診療部長、90年に院長。同年、福岡県医師会理事。98年に県医師会専務理事、2006年に会長。10年に日本医師会副会長、12年に会長（第19代）に就任し、2020年まで4期務めた。17年に日本人で3人目となる世界医師会会長に就任（第68代、18年まで）。

去る10月に第30回目の「在宅ホスピスを語る会・訪問看護介護者交流会」を行った。在宅医療を受けていた患者さんと、この1年の間にお亡くなりになった方のご家族をお招きして、ご家族のご苦労をお労いすると共に、今後の在宅医療へのご要望をお聞きする為に行っている。

私どもが在宅医療に関わりを持つようになったのは、昭和から平成に年号が変わる1980年代からである。我が国の在宅医療に大きな転機が起きたのは1988年の在宅患者訪問診療料の創設も一因であった。それまでは通院困難な患者さんは近隣の診療所の医師が定期的な往診をし、必要に応じて静脈注射を行うなど、在宅医療を行っていた。

1986年に寝たきり老人訪問診療料が創設されると注射にかかる保険診療は包括になり、単独での保険請

求が出来なくなったので、定期的な往診をして注射をする行為に制限がかけられた。病院を退院して近所の医師に往診をお願いしていた患者さん方が、容態の急変以外では往診を受けにくくなった。

家族から相談を受け、近くの医師に往診してもらえない方に“訪問診察”を開始したのが在宅医療へのスタートであった。1991年に病院の中に地域保健課を設置し地域に積極的に関わりを持つようになり、訪問看護を開始し在宅での患者さんへの関わりが増えてくると、人生の終末期を自宅で過ごしたい方が増えてきた。

病院を退院された後、自宅でできるだけ過ごして頂き、訪問看護と訪問診察を組み合わせ、できるだけ自宅で看取っているが、ご家族の不安が大きい時には最後の段階は入院してもらっている。何が何でも在宅だけで終末をみるとご家族の不安・負担が大きくなりすぎるので、訪問看護師の皆さんに、折々にご家族とよく話し合ってもらい選択をしてもらっている。

交流会では看取りを行われたご家族を表彰し、在宅スタッフのカリンバの演奏の中で、お亡くなりになった方を偲んでもらった。お一人お一人のご家族とケアマネジャーのご意見を聞いたが、「家族の苦労も多いが最期を看取れてよかった」と感謝され、同時に、ご家族の心のケアに繋がっている。医療介護側からは、お一人お一人の経過の中で何が足りなかったか等の反省も踏まえて、今後の在宅ホスピスの向上に向けて率直なご意見を話して頂いている。

## VOICE of Chairman

### 増え続ける老衰死に思う

(一社)日本在宅ケアアライアンス理事長  
新田 國夫

2018年以降、老衰死は我が国の死亡原因の3位となっている。ところが西欧先進国では、老衰死が1パーセントに満たない国もある。何が違うのか考えると興味深い。かつて、病院死の増加に伴い、老衰死は減少した。世界に先駆けた日本の超高齢社会、はたして、旅立つ本人も、家族も、支えたスタッフも満足する看取りが行われているのか、気になる。



うの目 たかの目  
メディアの目

迫田 朋子

ジャーナリスト  
元 NHK 解説委員 / 福祉番組ディレクター

## 自宅で亡くなるということ

在宅看取りの取材をした。83歳の男性の方が息をひきとるまでの2か月間、訪問診療等に同行し、記録させていただいた。

11年前に自宅で亡くなった父のことを思い出した。夏の終わりに食べられなくなって医師から処方された栄養剤をお気に入りのマグカップに入れて口から飲むようになっていた。母と二人暮らしだったが、母の介護疲れが目に見えてきて私が週に何度か泊まるようになっていた。亡くなる前の晩はせん妄で何度か起こされたが、それでも朝は「いってらっしゃい」と私を送り出し朝の栄養剤を飲み終わったところで心臓が停止した。急いで実家に戻ったときは、すでに訪問の医師によって死亡確認されていた。

その日の夜も、前の晩とまったく同じように過ぎていった。父は介護用ベッドに寝ていて、母のベッドとの間に川の字のように私が寝ている。ときに父に声をかけながら、でも昨日のように起こされたりしないね、などと母と笑いあった。亡くなってはいても父はそこに存在していたし、いつもの日常が続いていた。

今回、取材をさせていただいたお宅でも同じことを感じた。亡くなってもお父さんは存在感があった。いつもの部屋、いつもの言葉、差し込む光もいつもと同じ…。死が怖いものでも忌避するものでもないことが家族みなに共有されていた。

ひとは誰でもいずれは亡くなる、そのことを自然に受け止められることがとても重要だとあらためて思った。

遠くの名医より

## 近くの在宅医

最終回



太田 秀樹

(一社)日本在宅ケアアライアンス事務局長  
(一社)全国在宅療養支援医協会事務総長

## “世間話ベースドメディスン”のすすめ

病院死は2005年の79.8%をピークにその後は減少しつづけ、2020年は68.3%となった。居宅系高齢者施設や介護老人保健施設でも看取りが行われるようになったためだ。病院で死ぬという日本独自の文化は、やっと変容してきた。在宅医療が浸透して、市民権を得た証左でもある。ところが、在宅医療とは何かと問われても、定義は曖昧だ。

恩師である故・五十嵐正紘先生は、患者の話に耳を傾けると、診断はおのずとわかる、患者が教えてくれると言われた。だからというわけでもないが、私の診療は世間話が多い。患者の人生に関心を持つと、よもやま話も魅力的だ。問診と称して尋問するのではなく、世間話から暮らしぶりを聞き出すと真実がよく見える。だから自宅におじゃますれば、百聞は一見にしかずに決まっている。透析患者の朝飯がご飯と梅干しだけ、昼はカップ麺で、飲み残しの薬が山積みでも、驚くこともない。

医学は病院医療から学ぶとしても、在宅医療とはと考える前に、医療の原点は暮らしの中にある。客観性をもって、自然現象に法則性を見出し、普遍性を求め、治療の標準化を試みても、在宅での奇跡は日常茶飯事だ。

最近、医療人類学という学問領域を知った。なるほど、いくらEBMを追求しても、患者を幸せにできないジレンマに光が差してくるような気がする。

## 在宅医療動向 / 08

## 厚生労働省の動き

認知症施策推進大綱を中間評価  
サポーターなど目標を見直し

認知症の人は2012年の462万人から2025年には730万人となり、高齢者人口の実に5人に1人の割合になると見込まれる中、認知症対策は喫緊の課題となっています。このため政府は、2025年に向けた国の認知症施策の方向性を定めた「認知症施策推進大綱」を中間評価し、一部の項目で見直しを行います。認知症サポーター養成数の目標などはさらに引き上げる方針です。

この大綱は、3年前の2019年に官房長官を議長とする関係閣僚会議で決定されたものです。共生と予防を車の両輪に、「普及啓発・本人発信支援」「予防」「医療・ケア・介護サービス・介護者への支援」「認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援」「研究開発・産業促進・国際展開」の5つの柱で、2025年までに各省庁が実施する施策やKPI(重

要業績評価指標)を設定しています。中間年にあたる2022年に進捗状況を評価しました。

その結果、KPIの74件、評価項目の92件のうち、目標を既に達成したものが25件、3年目までの目標を超えたものが12件でした。一方、3年目時点の目標達成状況が60%未満は4件、目標年度が過ぎているのに未達成だったものは12件でした。このため、KPIを達成した項目や未達成の項目の一部で新たな目標を設定します。

例えば、「認知症サポーター養成数」は2020年度に1200万人とのKPIに対し、2022年6月末時点で1391万人に達しており、目標を1500万人に引き上げます。同じく、「自治体における事前に本人の意思表示を確認する取組の実施率」は2021年度で62%と、50%とするKPIを上回り、70%に変更します。一方、成年後見制度で中核機関の整備などを全市区町村で実施するKPIは未達成で、期限を延長するなど見直しを行いました。

中間評価を踏まえ、国は引き続き2025年の目標年に向けて施策を強化していく方針です。

(文責:JHCA事務局)

## 賛助会員団体紹介

日本在宅ケアアライアンスの事業にご協力・ご支援をいただいている賛助会員の皆様を紹介します。

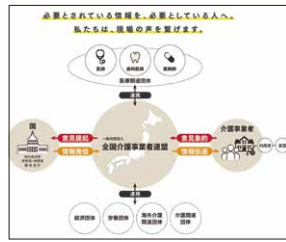


### 一般社団法人 全国介護事業者連盟

一般社団法人全国介護事業者連盟(本部所在地:東京都千代田区、理事長:齊藤正行)は、2018年6月に設立した介護事業者及び障害福祉事業者による団体です。

主な活動内容としては、少子高齢社会に加えて感染症の脅威、世界的な情勢不安による物価高騰等の社会的課題に対し、法人種別やサービス種別の垣根を超えて業界全体が一丸となり、国や関係機関と幅広い連携・協働のもと課題整理や提言・要望等を行っています。

在宅における医療・介護・福祉



業界一丸となって課題整理や提言を行う

ネットワーク構築は、持続可能な社会保障制度改革の要のひとつであることから、一般社団法人日本在宅ケアアライアンスの活動趣旨に賛同し賛助会員として参画させていただいています。

### 公益社団法人 日本理学療法士協会

日本理学療法士協会は、医療専門職である理学療法士という国家資格者による学術・職能団体です。理学療法士の地位向上を通じて、国民の皆様の医療・保健・福祉の向上を目指し、「学術」「教育」「職能」「国際」「広報」活動を展開しています。

在宅ケアにおいても、思いに寄り添い、お手伝いをいたします。リハビリテーションを通して、豊かで尊厳のある暮らしができるよう、今後も本会・理学療法士は皆様の健康と幸福に寄り添ってまいります。



あらゆる分野で活躍する理学療法士  
出典：日本理学療法士協会発行「理学療法ハンドブック シリーズ⑩在宅での危険予防」17ページ

### マルホ株式会社



事業領域を拡大してニーズに対応

マルホは1915年の創業以来100年以上にわたり、人々の健康とよりよい暮らしに貢献してきました。現在では、皮膚科学領域のスペシャリティファーマとして、患者さんのQOL向上を

目指した事業活動を展開しています。

人生100年時代と言われる長寿化などを背景として、患者さんが「健康」に求めるものは日々変化し、多様化しつつあります。

我々は、見過ごされてしまっている、あるいは諦めてしまっている患者さんのニーズに応えるべく、新しい発想で画期的な製品を作り出し、速やかに患者さんの手元にお届けし、誰もが笑顔で暮らすことができる社会の実現を目指してまいります。

### アボットジャパン合同会社

アボットは、「life. to the fullest®」というパーパスを掲げています。世界中の人々は、一つの願いを共有しています。それは、人生を最大限に謳歌し、自分の可能性を最大化し、最高の自分になることです。その願いを叶えるために、アボットは革新的で高品質な製品とサービスを提供し、人々がたたく長く生きるのではなく、健康で活気に満ちた人生を謳歌することを手助けしています。

アボットジャパンは、60年以上にわたり日本の人々が最高水準の健康を享受できるよう、科学に



最大限の人生のために高品質の製品を提供

基づく医療ソリューションを提供してまいりました。日本の人々がより健康的な生活を送れるよう、革新的な医薬品・医療機器・栄養剤を提供し、在宅医療に貢献してまいります。

### 一般社団法人 日本生活期リハビリテーション医学会



生活期リハビリテーションの充実に向けて

超高齢社会を背景に地域包括ケアが推進され、様々な障害を持ちながら地域で生活されている方々も年々増加しています。そのため、これらに対応する生活期におけるリハビリテーション医学・

医療の一層の充実が求められています。

しかし、提供される質的課題は山積しており医師の関与も十分とはいえないのが現状です。リハビリテーション医療や在宅医療に関わる医師からも、生活期のリハビリテーション医学・医療の知識を得る機会への期待が寄せられています。日本生活期リハビリテーション医学会はこれらを背景に発足いたしました。生活期のリハビリテーション医学・医療に関心をお持ちの皆様のご入会を心よりお待ちしております。

日本在宅ケアアライアンスの趣旨と活動にご賛同いただける団体等に賛助会員としてご協力・ご支援をお願いしております。



《 お問い合わせ・お申し込みは 日本在宅ケアアライアンス事務局まで 》

TEL.03-5213-4630 FAX.03-5213-4640

✉ zaitaku@jhhca.com



アライアンスと  
みんなの動き

麹町だより

法人設立3年目の2023年に向けて  
昨年は大きな年となりました

## ■ 昨年はイベントのリアル開催が復活

昨年一年を振り返りますと、日本在宅ケアアライアンス(JHHCA)は、新たに活動報告と交流・発信の場として「日本在宅ケアサミット」を企画し、多くの方々のご協力のもと、無事開催することができました。あらためて関係各位に御礼申し上げます。今年は「日本在宅ケアサミット2023」として7月23日(日)に開催予定です。

関係学会・団体の大会も数多く開かれました。やっとリアルでの開催が実現し、直接会えた喜びの声を多くの会場で聞くことができたことが、印象に残りました。

一方、JHHCAの委員会は、多忙な皆さまになるべく多く参加していただくため、リモート開催が多くなっていますが、精力的に議論を進めております。ご多忙な中、困難な日程調整にご協力のうえ、ご参加くださっている委員の皆さまには、心より感謝申し上げます。

## ■ 2022年度在宅医療推進フォーラム

2022年も11月23日の「在宅医療推進の日」に、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団と国立長寿医療研究センターの主催で「第18回在宅医療推進フォーラム」が開催され、東京ビックサイトの国際会議場には、リアル及びリモートで1,500名を超える在宅ケア関係者が結集しました。これは、JHHCAとしても企画段階から全面的に協力している重要なイベントです。

2022年は、久しぶりに午前中がブロックフォーラムにあてられ、各地での取り組みの報告が行われました。地域に根ざした活動が多いため、なかなか他の地域における在宅ケアの取り組みを知る機会がないのですが、コロナを経て再び活動が広がっていることを知ることができました。

2022年のテーマは「やっぱり最高！わが家、わが町～在宅医療の未来を語ろう～」でした。在宅医療の原点を振り返り、未来につなげることができたのではないかと、企画と運営の一部を担当した者としてひそかに自負しております。

レジェンドの黒岩卓夫先生、及び山崎章郎先生、厚生労働省の榎本健太郎医政局長、本当にありがとうございました。

シンポジウムでは短時間でもったいないくらいの貴重な実践例をたくさん聞くことができ、未来につながる方向と光を感じることができた気がします。幸せな時間でした。

## ■ 一層のご支援をお願いします

JHHCAが一般社団法人となり2022年11月で2年が経過しました。まだまだ十分な法人基盤ではありませんが、幸い正会員へのお申し込みもいただいております。

また一層のご支援をいただきたく、賛助会員募集のお声がけもしてまいりたいと思っています。

2023年も、どうぞよろしくお願いたします。

(副理事長 武田俊彦)

### 令和4年度事業計画② 9～12月の事業のご報告



秋から冬にかけて、JHHCAの諸々の事業が精力的に展開されました。災害対策委員会では、この間、新型コロナウイルス感染症対策と在宅療養者を守るための「プロトコル」の作成・改訂に取り組んできましたが、災害時の在宅医療ネットワークの構築という原点に戻り、「在宅医療のBCP」をテーマに委員会を9月に開催しました。データブック委員会は、10月に委員会を実施、昨年度収集した在宅医療に關

するデータの整理分析の方針について協議しました。食支援委員会は、10月と12月に委員会を実施、訪問看護師・薬剤師・介護支援専門員・言語聴覚士・管理栄養士などの立場から食支援連携についての報告がありました。大都市委員会は、大都市圏の病院と地域の連携をテーマに12月に委員会を実施しました。2023年からは小児の地域包括ケア委員会もスタート予定です。(研究事業部長 高橋在也)

### 一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス 社員団体

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般社団法人 全国在宅療養支援医協会</li> <li>● 一般社団法人 全国在宅療養支援歯科診療所連絡会</li> <li>● 一般社団法人 全国訪問看護事業協会</li> <li>● 一般社団法人 全国薬剤師・在宅療養支援連絡会</li> <li>● 一般社団法人 日本介護支援専門員協会</li> <li>● 一般社団法人 日本ケアマネジメント学会</li> <li>● 一般社団法人 日本在宅医療連合学会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一般社団法人 日本在宅栄養管理学会</li> <li>● 一般社団法人 日本在宅ケア学会</li> <li>● 一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会</li> <li>● 一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会</li> <li>● 一般社団法人 日本老年医学会</li> <li>● 公益社団法人 全国国民健康保険診療施設協議会</li> <li>● 公益社団法人 全日本病院協会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公益財団法人 日本訪問看護財団</li> <li>● 特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会</li> <li>● 特定非営利活動法人 日本ホスピス・在宅ケア研究会</li> <li>● 日本在宅ホスピス協会</li> <li>● NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク</li> </ul> <p>(五十音順)</p>
--	---	---

### 一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス 賛助会員

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療法人 心の郷 穂波の郷クリニック</li> <li>● 株式会社 大塚製薬工場</li> <li>● 東邦薬品株式会社</li> <li>● 株式会社 ニチイ学館</li> <li>● 一般財団法人 在宅ケアもの・こと・思い研究所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療法人 在宅サポート ながさきクリニック</li> <li>● 一般社団法人 全国介護事業者連盟</li> <li>● 公益社団法人 日本理学療法士協会</li> <li>● マルホ株式会社</li> <li>● アポットジャパン合同会社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Meiji Seika ファルマ株式会社</li> <li>● 一般社団法人 日本生活期リハビリテーション医学会</li> <li>● 一般社団法人 日本作業療法士協会</li> <li>● 株式会社 クリニコ</li> <li>● 医療法人 あい友会</li> </ul>
---	--	--

事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-5-1 全共連ビル 麹町館 506  
一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス事務局  
TEL.03-5213-4630 FAX.03-5213-4640 ✉ zaitaku@jhhca.com

HPにも情報を掲載しています



<https://www.jhhca.jp>